

指名講演

2. 糖尿病・透析患者における中性脂肪蓄積心筋血管症 (TGCV) 診断・治療の意義を考える

愛知医科大学 循環器内科
天野 哲也

“心臓のメタボリック症候群”ともいえる中性脂肪蓄積心筋血管症(TGCV)が2008年に大阪大学の平野ら(N Engl J Med. 2008)によって提唱された。2020年末の時点で336例が報告されており、このうちすでに58例が亡くなっている。最近TGCVはフランス国立保健医学研究所(Inserm)を中心に運営されている希少疾患に関する国際的データベース「Orphanet (オーファネット)」に、独立した疾患としてTGCVが登録された(ORPHA code: 565612)。

一方で、糖尿病・透析合併の心疾患患者は予後悪化に対するハイリスク群である。特に透析症例においては、脂質異常症合併に対するスタチン等の有効性は否定的であり、薬物溶出性ステント(DES)を用いてもなお冠動脈インターベンション(PCI)後の再狭窄率、target vessel failure(TVF)は高く、打開策は不透明なままである。

最近我々はこうした背景を基に、TGCVにおけるPCI成績、透析患者におけるTGCV罹患率、長期予後等を検討した(JAMA Netw Open 2020、Heart 2020)。結果非常に興味深い知見を得た。

本講演においては、こうした検討の一端を報告するとともに、現在進行中のTGCV治療法としてのトリカプリンカプセルの開発に向けた奮闘もふくめてご紹介したい。

略歴

1989年	名古屋大学医学部医学科 卒業	2005年	中部労災病院 冠動脈疾患集中治療部 部長
	市立四日市病院 臨床研修医	2007年	同 循環器内科 部長
1997年	名古屋大学医学部附属病院第三内科	2012年	愛知医科大学医学部内科学講座 (循環器内科) 教授
2001年	厚生連愛北病院 循環器科 部長	2019年	愛知医科大学病院 副院長
2003年	名古屋大学医学部病態内科学講座 器官制御内科学講座 助手		同 医療連携センター センター長 現在に至る

■所属学会・資格：

日本内科学会(総合内科専門医・指導医・認定内科医)、日本循環器学会(専門医・東海支部評議員、FJCS、理事)、日本心血管インターベンション治療学会(専門医・理事)、日本心血管動態学会(理事)、日本心臓病学会(FJCC)、ヨーロッパ心臓病学会(FESC)